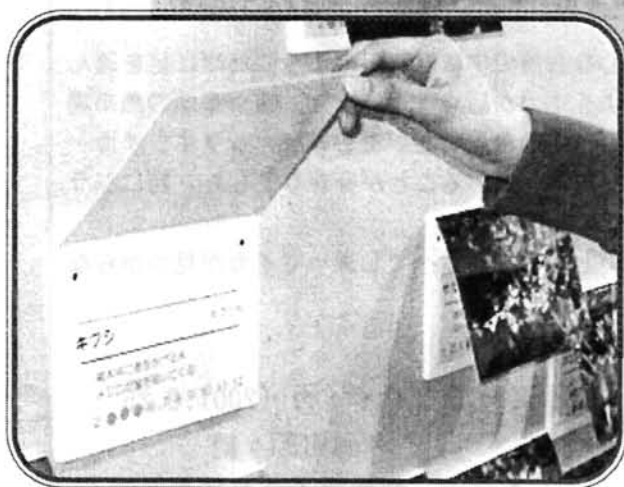
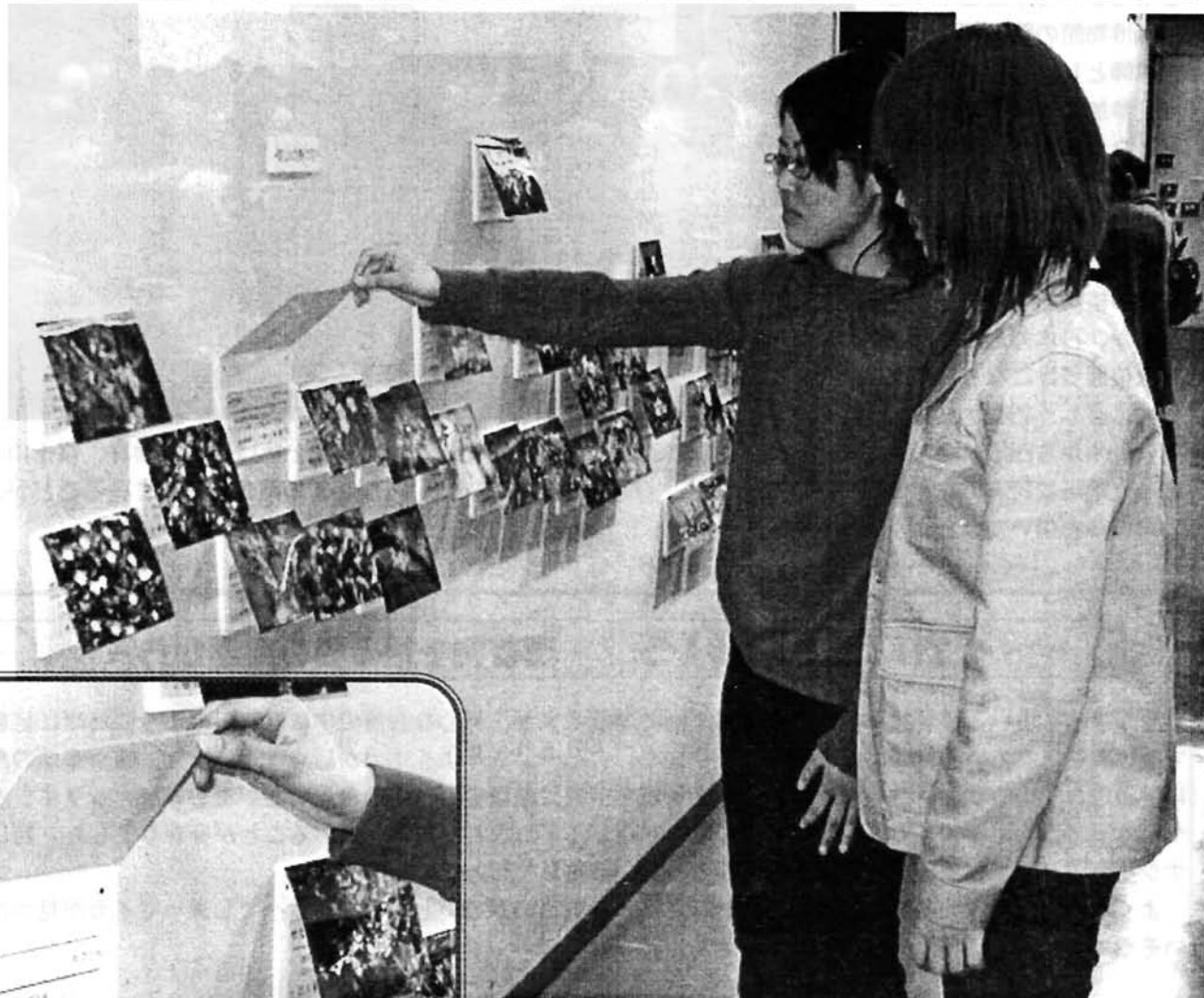




あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2002. 4月号



好評！ターンアップパネル

博物館で開催中の春期特別展「神奈川の花・湘南の花」では、約300種類の身近で見られる花を写真で紹介しています。その展示方法として、二つ折りにした厚紙にキャビネ判の写真を貼り、表からは写真だけが見えて、それを持ち上げると初めて解説がよめる形にしました。この形の展示をターンアップパネルと名付けました。単純な発想なので、どこかで同じような展示手法がとられているかもしれませんが、いちおう平塚市博のオリジナルなアイデアだと考えています。

さて、このターンアップパネルが来場された方に好評を得ています。ただ、平面的に写真と解説が並んでいたのでは、ざっと流して見てしまう場合が多くなりがちですが、手にとってめくるという作業が加わることで、一つ一つじっくり目を通すきっかけが生まれるようです。家族やグループで話がはずんでいる光景もよく目にしますが、一つのパネルを持ち上げるということで、みんなが同じ物を囲んでいるという雰囲気も自然に生まれているように感じます。また、植物に詳しい方にとっては、写真を見て名前をあてるという自分の知識を試す楽しみがあるようです。

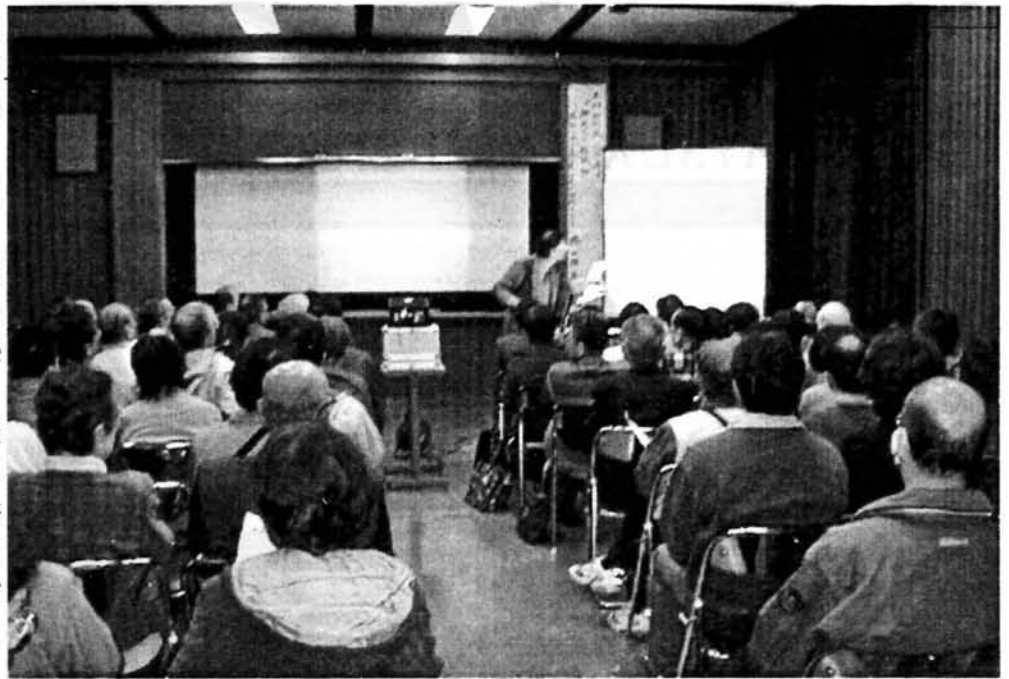
このパネルを使った「花ごよみクイズ」も用意されていますので、ぜひ来場してターンアップパネルを楽しんでください。なお、会期は4月14日（日）までです。

特別展記念講演会を開催

3月10日に、春期特別展を記念して「神奈川県植物相」というテーマの講演会が開催されました。「神奈川県植物誌2001」編纂の中心的な役割を果たされた県立生命の星・地球博物館の勝山輝男学芸員を講師としてお招きしたもので、参加者が80名を越える盛会となりました。

勝山氏は、丹沢や箱根で撮影された数々の花の写真をスライドで紹介しながら、神奈川県植物相の特色がどこにあるか、日本列島の中ではどんな位置づけになるかなどについて詳しく紹介されました。

九州から四国、そして紀伊半島など西日本から広がってきたソハヤキ要素と呼ばれる植物群、富士山を中心とした地域に特有のフォッサマグナ要素など、身近な植物にもいろいろな起源の種が含まれていることが、参加者の関心を引いていたようです。

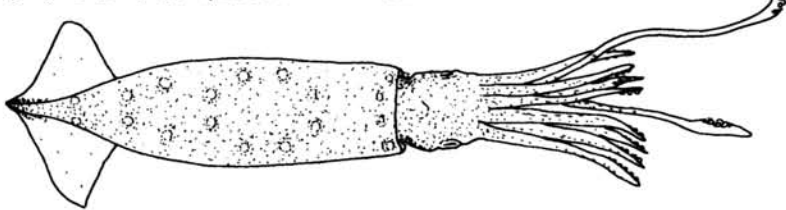


イカにもいろいろ - 漂着物を拾う会の話から -

館が主催している漂着物を拾う会は毎月1回の開催ですが、熱心な会員の中には毎日のように海岸に足を運んで拾い物をされている方がいます。その方々から、ここ一、二年よくイカが届くようになり、東京築地の魚市場に併設されている「おさかな資料館」の山田和彦学芸員に種類を調べて頂きました。その結果、シラホシイカ・ヤセトビイカ・ホタルイカモドキ・スジイカ・ユウレイイカなどが含まれていることが分かりました。特にシラホシイカ・ヤセトビイカは相模湾での記録の少ない貴重な種類とのことです。

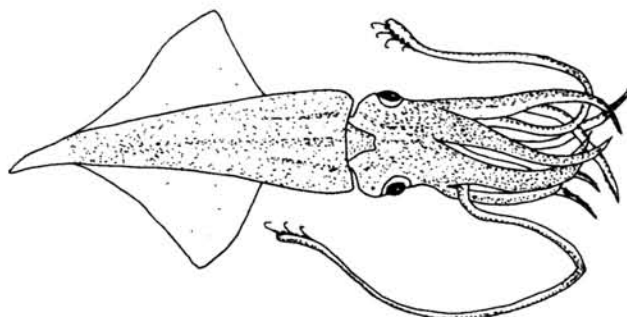
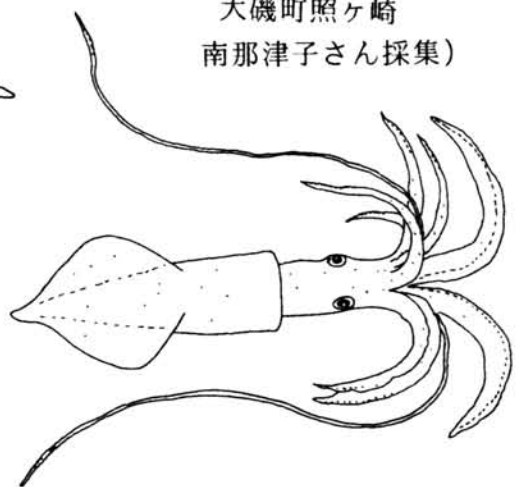
よくイカを発見される新井和雄さんのお話では、早朝にいかないとカラスが食べてしまってイカが見つからないそうです。まさに早起きは三文の得ですね。

シラホシイカ (2000.11.13 虹ヶ浜 新井和雄さん採集)



ユウレイイカ (2001.9.25

大磯町照ヶ崎
南那津子さん採集)



ホタルイカモドキ (2001.3.20 虹ヶ浜 新井和雄さん採集)

☆☆ はるかな宇宙 ☆☆

4月12日～6月2日

夜空に輝く星たちは、どのくらい遠くにあるのでしょうか。星の正体は、世界を明るく照らすあの太陽と同じで、それがあんなにぼつりとさみしく見えるのですから、かなり遠いということは想像がつかます。そもそも、太陽はどのくらい遠くにあるのでしょうか。

太陽までの距離は約1億5千万kmです。たとえば、地球の裏側まで1日で飛んでしまうジェット旅客機で、太陽に向かってまっすぐ飛んだとしたら、到着まで20年くらいかかってしまいます。これもずいぶん遠いと感じられますが、太陽系に最も近いおとなりの星、ケンタウルス座α星までは、なんと5400年もかかってしまうのです（他の星ではさらに10倍だとか100倍もかかることになります）。その距離は40兆kmにもなり、あまりのケタの大きさに、ちょっとピンと来ない数字になってしまいます。

星の距離を表わすときには、そこで、光の速さで1年に届く距離を1光年と言い、単位に用います。光は1秒に30万kmも飛びます。これは東京～ワシントンに14往復するくらいの距離ですが、ケンタウルス座α星までの距離は4.3光年。光でも届くのに4.3年もかかってしまうのです。

それでは、夏の夜空にまたたく織り姫星が、ひこ星に向かって愛の光（なんのことやらよくわかりませんが）を矢のように射たら、その光は星空の中をどのくらいの速さで進むでしょう。そしていつ、ひこ星にとどくでしょう。また、もっと遠い、銀河系の外の天体たちは、どのくらい遠いのでしょうか。

今月のプラネタリウムでは、のどかな春の夜空に、その星たちのいる場所の広さを考えてみます。



===== 五惑星の集合を見よう

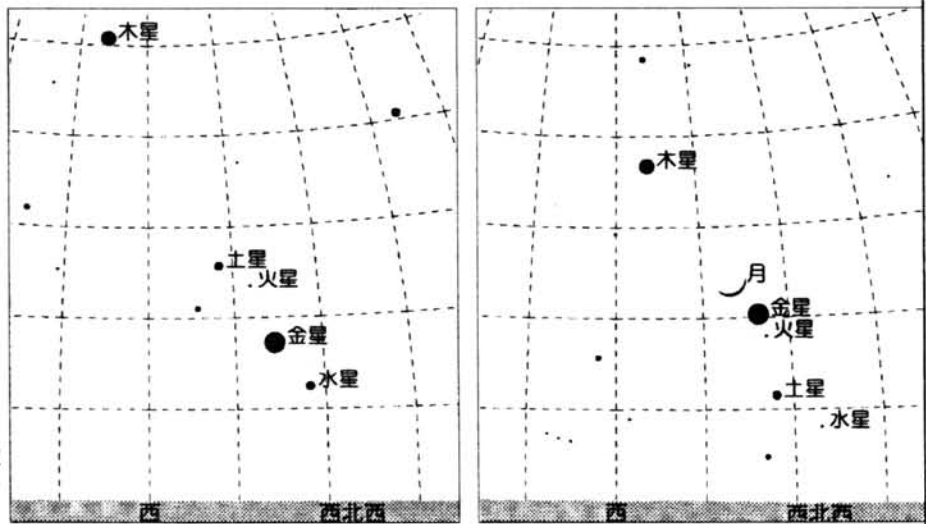
花曇り、という言葉さえあるこの季節、しばらく星を見ないうちに、夕焼けの中に明るい星が出現しているのを見かけませんでしたか？

これは、よいの明星になった金星です。3月初めころから見え始めていて、だんだん高くなり、目立つようになってきました。さらにこのあと、4月下旬から5月半ばにかけては、まるで金星が「あつまれ！」と号令をかけたかのように、夕焼けの中に水星・金星・火星・木星・土星の5惑星が集まります。

とくに見所になるのは、金星が土星・火星に下から近づくゴールデンウィークころと、これらの中に細い月が割って入る5月14日ころでしょう。どれがどの星か、注意しながら見張り続けてみましょう。毎日ならば具合が変化して行き、楽しめるはずですが、ただ、この中で火星はすでに距離が遠く、1.6～1.7等くらいになっているので、少し見つけにくいかもしれません。

図：日没30分後の西の空
(StellaNavigator Ver.5による)

(左：4月28日 右：5月15日)



博物館カレンダー

<平成14年4月>

<平成14年5月>

3	水	☆ 寄贈品コーナー「自然部門新資料展」(~4月28日)	展示室
		民俗探訪会調査会「民間信仰調査」	田村
4	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
5	金	古文書講読会	講堂
7	日	地質調査会「塔ヶ岳亜層群8」	野外
11	木	石仏を調べる会「説明会」	特研究室
12	金	古文書講読会	講堂
13	土	☆ プラネタリウム「はてしない星空」(~6月2日)	プラネ室
		◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		地質調査会「まとめと年間計画」	特別研
14	日	民俗探訪会「説明会」	講堂
		水辺の楽校生きもの調べの会	相模川
17	水	裏打ちの会	科学室
		民俗探訪会調査会「民間信仰調査」	特研究室
18	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
19	金	古文書講読会	講堂
20	土	○ 自然の新聞を作る会「春の海岸」	高浜台
		天体観察会「ガイダンス」	科学室
21	日	◎ ろばたばなし	展示室
		相模川の生き立ちを探る会「ガイダンス」	科学室
25	木	石仏を調べる会「野外調査」	八幡
26	金	古文書講読会	講堂
27	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研究室
		◎ 星を見る会「西空の惑星たち」	屋上
28	日	○ 体験学習「家紋風を作ろう」	科学室
		古代遺跡を探す会	鎌倉市

1	水	☆ 寄贈品コーナー「人文部門新資料展」(~6月2日)	展示室
		民俗探訪会調査会「民間信仰調査」	特研究室
2	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
9	木	石仏を調べる会	特研究室
10	金	古文書講読会	講堂
11	土	◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		地質調査会「読書会」	特別研
12	日	水辺の楽校生きもの調べの会	相模川
15	水	プラネタリウム 幼児投影「たれがおりましかけたの?」(~7月6日)	プラネ室
		裏打ちの会	科学室
		民俗探訪会調査会「民間信仰調査」	特研究室
16	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
17	金	古文書講読会	講堂
18	土	◎ 星を見る会「月と西空の惑星たち」	屋上
		天体観察会「ひるまの金星」	屋上
19	日	◎ ろばたばなし	展示室
		相模川の生き立ちを探る会「丹沢の珊瑚礁」	松田町
23	木	石仏を調べる会	特研究室
24	金	古文書講読会	講堂
25	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研究室
		地質調査会「塔ヶ岳亜層群9」	野外
26	日	民俗探訪会「諏訪神社祭礼」	横須賀
		古代遺跡を探す会	科学室

☆：展示（無料）プラネタリウム（観覧料）

○：申込制 ◎：自由参加 無印：会員制

<展示とプラネタリウム>

☆春期特別展

「神奈川の花・湘南の花—植物誌の語るもの—」
20年にわたって続けられてきた調査をもとにして、神奈川県を特徴づける花々の姿を展示します。絶滅に瀕している種類、一方で急速に数を増やしている種類など、植物の世界に見られる近年の変化についても紹介します。

会期：4月14日（日）まで

☆寄贈品コーナー「自然部門新資料展」

この一年間に寄贈された生物・地質・天文の資料を展示します。

会期：4月3日（水）～4月28日（日）

☆プラネタリウム

「星の虹<スペクトル>」：4月7日（日）まで
「はてしない星空」

星たちはどのくらい遠くにあるものなのでしょう？宇宙のスケールを考えてみます。

期間：4月13日（土）～6月2日

投影日：土日曜日の11時と14時

<参加者募集>

◎ろばたばなし

民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。

日時：4月21日（日）(1)13時30分～(2)15時～

場所：展示室民家 参加：自由

○自然の新聞を作る会「春の海岸」

砂浜の花や漂着物を観察し、スケッチをしたり新聞記事にまとめたりします。

日時：4月20日（土）13時～16時

場所：平塚市高浜台

申込：往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、4月10日までに博物館へ申し込む

定員：30名（多数の場合は抽選）

○体験学習「家紋風を作ろう」

ゴールデンウィークに向け、伝統の家紋入り角風を作ってみませんか。

日時：4月28日（日）10時～16時

場所：博物館科学教室

申込：往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、4月18日までに博物館へ申し込む

定員：20名

◎漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えたりします。

日時：4月13日（土）9時30分～11時

場所：平塚虹ヶ浜海岸

参加：自由（初めての方は往復はがきで申し込む）

◎星を見る会「西空の惑星たち」

西空に集まる、水星、金星、火星、木星、土星を観察します。

日時：4月27日（土）19時～20時30分

場所：科学教室・屋上 参加：自由

あなたと博物館 27巻 1号 通算305号 発行 平塚市博物館 2500

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail:muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>